

これらを式で表すと

$$F = k \frac{|Q_1||Q_2|}{r^2} \quad [\text{N}] \quad (1.1)$$

となります。ここで、 $k$ は比例定数、 $Q_1$ 、 $Q_2$ は一つめの電荷1と、もう一つの電荷2の電気量で、 $r$ はその二つの電荷の間の距離です。

この式は力の大きさを表していますが、力には向きがあります。向きは、二つの電荷が相互作用する(綱引きするようなもの)ので、それぞれを結ぶ直線に沿った方向となります(図1.1)。電荷がプラスどうし、マイナスどうしなら反発する方向、異なれば引き合う方向となります。これを**クーロンの法則**と呼びます。

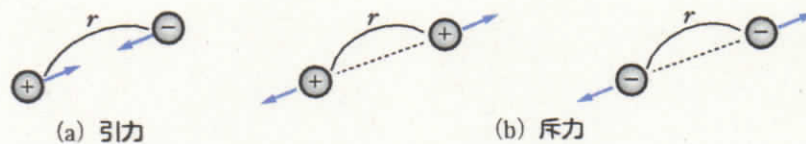


図1.1 電荷に働くクーロン力(引力と斥力)

今後の便利性から、 $k$ を $1/4\pi\epsilon_0$ とし、以下の式で表しておきましょう(その理由は次節でわかります)。

$$F = \frac{1}{4\pi\epsilon_0} \frac{|Q_1||Q_2|}{r^2} \quad (1.2)$$

ここで、 $\epsilon_0$ は**真空の誘電率**と呼ばれる定数で、その値は、 $8.854 \times 10^{-12} \text{ F/m}$ となります。誘電率の意味、真空ではない場合の取り扱いなどは、6章で学びましょう。

## 例題2

1Cと-3Cの点電荷が距離0.1m離れて置かれているとき、両者に働く力を求めよ。

**解答**

ここでは、力の大きさを、式(1.2)を使って求めますので、電気量は絶対値を計算します。

$$F = \frac{1}{4\pi\epsilon_0} \frac{|Q_1||Q_2|}{r^2} = \frac{1}{4 \times 3.14 \times 8.854 \times 10^{-12}} \frac{1 \times 3}{0.1^2}$$

$$= 2.7 \times 10^{12} \text{ [N]}$$

非常に大きな力となっていることがわかります。

電荷の符号が異なるので、引力が働くことになります。

より正確には、力の向きを含めて、ベクトル（大きさと同方向をもつ量）で表す方が便利です（図1.2）。

その場合、式(1.2)は以下のように書けます。

$$F_1 = \frac{1}{4\pi\epsilon_0} \frac{Q_1 Q_2}{r^2} a_{21} = \frac{1}{4\pi\epsilon_0} \frac{Q_1 Q_2}{r^2} \frac{r_{21}}{r} \quad (1.3)$$

ここで、 $F_1$ は電荷1が受ける力であり、 $a_{21}$ は電荷2から1までを結ぶベクトルの単位ベクトルです。 $r_{21}$ は電荷2から1までを結ぶベクトルであり、これをベクトルの大きさ $r$ で割ることで、 $a_{21}$ を書き換えています。

電荷2が受ける力( $F_2$ )は、式中1,2を入れ替えるだけです。

$$F_2 = \frac{1}{4\pi\epsilon_0} \frac{Q_1 Q_2}{r^2} a_{12} = \frac{1}{4\pi\epsilon_0} \frac{Q_1 Q_2}{r^2} \frac{r_{12}}{r} \quad (1.3)'$$

ベクトルは逆方向となり、お互いの電荷は逆方向へ力を受けることを示しています。

作用と反作用の関係になります。

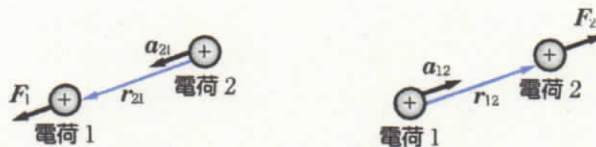


図1.2 ■クーロン力（ベクトルによる表記）

**例題3**

直角座標軸上、点 $P_1(a, a, 0)$ に電荷 $Q_1$  [C]が、点 $P_2(0, 0, z)$ に電荷 $-Q_2$  [C]が存在する。それぞれの電荷が受ける力をベクトルで求めよ。

**解答**

式(1.3)  $F_1 = \frac{1}{4\pi\epsilon_0} \frac{Q_1 Q_2}{r^2} \frac{\mathbf{r}_{21}}{r}$  と式(1.3)'  $F_2 = \frac{1}{4\pi\epsilon_0} \frac{Q_1 Q_2}{r^2} \frac{\mathbf{r}_{12}}{r}$  を使いまししょう。

$$r = \sqrt{(a-0)^2 + (a-0)^2 + (0-z)^2} = \sqrt{2a^2 + z^2}$$

$$\mathbf{r}_{21} = (a-0)\mathbf{a}_x + (a-0)\mathbf{a}_y + (0-z)\mathbf{a}_z = a\mathbf{a}_x + a\mathbf{a}_y - z\mathbf{a}_z$$

$$\mathbf{r}_{12} = (0-a)\mathbf{a}_x + (0-a)\mathbf{a}_y + (z-0)\mathbf{a}_z = -a\mathbf{a}_x - a\mathbf{a}_y + z\mathbf{a}_z$$

となるので、式(1.3)、式(1.3)'に代入して、

$$F_1 = \frac{1}{4\pi\epsilon_0} \frac{Q_1(-Q_2)}{(\sqrt{2a^2+z^2})^2} \frac{a\mathbf{a}_x + a\mathbf{a}_y - z\mathbf{a}_z}{\sqrt{2a^2+z^2}} = \frac{Q_1 Q_2 (-a\mathbf{a}_x - a\mathbf{a}_y + z\mathbf{a}_z)}{4\pi\epsilon_0 (2a^2+z^2)^{3/2}} \quad [\text{N}]$$

$$F_2 = \frac{1}{4\pi\epsilon_0} \frac{Q_1(-Q_2)}{(\sqrt{2a^2+z^2})^2} \frac{-a\mathbf{a}_x - a\mathbf{a}_y + z\mathbf{a}_z}{\sqrt{2a^2+z^2}} = \frac{Q_1 Q_2 (a\mathbf{a}_x + a\mathbf{a}_y - z\mathbf{a}_z)}{4\pi\epsilon_0 (2a^2+z^2)^{3/2}} \quad [\text{N}]$$

**まとめ**

### クーロンの法則

電気量  $Q_1$  と  $Q_2$  の二つの点電荷が距離  $r$  離れて置かれているとき

- ① 電荷の間には以下の力(クーロン力)が働く。

$$F = \frac{1}{4\pi\epsilon_0} \frac{|Q_1 Q_2|}{r^2}$$

- ② 力の向きは、電荷の符号が等しければお互い反発する方向、電荷の符号が異なれば、お互いに引っ張り合う方向となる。

これらを、ベクトルを用いて式で表すと

$$\mathbf{F}_1 = \frac{1}{4\pi\epsilon_0} \frac{Q_1 Q_2}{r^2} \mathbf{a}_{21} = \frac{1}{4\pi\epsilon_0} \frac{Q_1 Q_2}{r^2} \frac{\mathbf{r}_{21}}{r}$$

$$\mathbf{F}_2 = \frac{1}{4\pi\epsilon_0} \frac{Q_1 Q_2}{r^2} \mathbf{a}_{12} = \frac{1}{4\pi\epsilon_0} \frac{Q_1 Q_2}{r^2} \frac{\mathbf{r}_{12}}{r}$$

となる。